

特集 *Special feature article* ザゼン草群生地

春を恋^こう

ザゼンソウはサトイモ科ザゼンソウ属、山中の湿地に生える多年草です。開花時期は2月～3月で、開花の際に赤紫のドームのような苞ほうに包まれた黄色い花の集まりにくすい（肉穂花序かじょ）が発熱し、周囲の雪を溶かします。

花の形が座禅を組む僧侶の姿に見えることが名称の由来とされています。

近年、湿地帯は激減しており、宮城県では絶滅危惧種、栃木県や茨城県では準絶滅危惧種に指定されている貴重な植物です。

今月は、大田原市北金丸にある市指定天然記念物「ザゼン草群生地」について、群生地の現状と、保護に尽力する人々を紹介します。



雪の中で花を咲かせるザゼンソウ（撮影日時：2014年2月13日）

春を恋う

——春を告げる花に、思いを寄せる人がいます。

「ザゼン草群生地」。大田原市のほぼ中央に位置する北金丸で、2月から3月にかけて貴重なザゼンソウの群生を見ることが出来ます。

この場所は、昭和47年(1972年)に市の天然記念物に指定され、故・林田六郎氏が管理人として手入れを行い、見学に訪れた方の案内などもしていました。

しかし、群生地周辺の環境は時代の流れとともに変化し、近年、ザゼンソウの花の数は減少傾向にあります。

それを受け、「北金丸ふるさと環境保全会」や、昨年から北金丸自治会役員で構成された「北金丸ザゼン草を守る会」が活動を始め、大田原中央ロータリークラブなどの協力を受けながら、群生地の環境保全・再生に取り組んでいます。

北金丸ふるさと環境保全会会長・新江和乎さんに話を伺いました。

手さぐりでも、ひとつずつ。

——自分たちで、試していく。

市の天然記念物の指定を受けてから、群生地は聖地のような場所となり、足を踏み入れ何かをするなんて考えてもみませんでした。

しかし、ザゼンソウの花の数が減少している現状に対し危機感を持ち、「何もしないことが保護なのか」と、疑問視する声がかかるようになりました。

それを受け、群生地再生のために市も乗りだし、ザゼン草群生地の発生している花の数や、どの位置に多く分布しているかなどを調べました。その結果、地面が湿っている場所の方が、花数が多いということがわかりました。

そこで、宇都宮大学教授の指示の下、「北金丸ザゼン草を守る会」とともに、地面の乾燥を防ぐために湧水を堰き止めたり、余分な雑草の除去などを行ったりしてきています。

ザゼンソウに関する文献はなく、この活動は、まさにゼロからのスタートでした。

植物には、栄養成長と生殖成長とがあって、たくさん花が咲いたとしても、それが理想の環境になったからなのかもわかりませんし、受粉のために必要な虫がいなくなったことが原因ではないか、という声もあります。

疑問と推測は尽きず、全ては『可能性』の話で、やってみないと分かりません。

宇都宮大学は、今年から生態の研究に着手していくと話しています。私たちも、できることをやっていきたいと思っています。

今は、木道から探して、「あ、あった!」という感じですが、かつてはそんなものではありません。とにかくたくさんザゼンソウがありました。

そんな日が再び現実のものとなるために、私たちは、現状維持よりも一歩先の、数を増やしていくことを目標に活動しています。

そして、ザゼン草群生地が、大田原のあちこ

群生地を見守り続ける



かつてのザゼン草群生地では数多くのザゼンソウを見ることができた。(撮影日時：2003年3月9日)

「2日見に来ないだけで結構出てきてるんだわ。」

木道から群生地を眺めて、林田恬(やすら)さんは言いました。

恬さんは叔父の故・六郎さんから群生地の管理を頼まれ、現在も続けています。

今のザゼン草群生地があるのは、六郎さんの管理はもってるん、当時の北金丸ふるさと環境保全会会長の佐藤高明さんをはじめとした、地域の皆さんの協力があつたからだと言います。

「群生地の看板を立てたり、清掃用具を買ってもらったり、感謝してるんだ。」

雪が降ると、自宅の庭よりも先に群生地の木道の雪を払いに来る恬さん。ザゼンソウをまるで自分の子どものようにだと話す恬さんは、群生地にとつて欠かせない存在です。

「いっぱい花があるに越したことはないけど、こればかりは自然が相手だからなあ。こんな寒い季節に一生懸命芽を出

教育機関との連携

大田原市立金丸小学校



金丸小学校長
秋元 崇子さん

「金丸小学校では、毎年12月に6年生が群生地の木道清掃を行っています。この活動はおよそ30年間続いており、市制施行60周年の折に功勞表彰を受けました。

ほかにも、1年生の観察スケッチや、3年生の地域探検でザゼン草群生地を訪れています。

これらの活動が、児童たちの地域へ関心をもつきっかけになってくれればと思っています。これからこの地域で生活していく子どもたちが、自分たちの住んでいる地域にとっても貴重で大切な場所があることを理解し、それを誇りに思ってもらえれば幸いです。」

宇都宮大学

雑草と里山の科学教育研究センター



連携協定締結式
宇都宮大学 雑草と里山の科学教育研究センター
大田原市 教育委員会

今年1月21日、宇都宮大学雑草と里山の科学教育研究センターと市教育委員会との間でザゼンソウの保全に関する協定が締結されました。

宇都宮大学には、群生地の保全・再生に向けて、雑草学が専門の小笠原 勝教授などから学術研究による支援をいただき、市は群生地を学生の環境教育の場として提供することで地域力アップに貢献していこうとするものです。

これからお互いに知恵を出し合い、ザゼン草群生地が地域の宝としてかつての姿を取り戻し次代に引き継がれるよう取り組みを進めていきます。



撮影日時：2015年2月4日



群生地内を一周する木道は、平成26年12月に全面的な改修を終えた。



10月の調査時にたてた目印の傍らでは、ザゼンソウが顔をのぞかせている。

Interview



北金丸ふるさと環境保全会会長
新江 和乎さん

ちにある名所のように、『立ち寄りた場所』になればいいですね。

Access—群生地を訪れるには



ザゼン草群生地の看板が目印。入口には駐車スペースが設けられている。

Interview



ザゼンソウ群生地管理人
林田 恬さん

してるんだから、それを見て楽しんでもらえたらうれしいなあ。」